

ヒラギノ字形のデザイン包摂規準一例

1. 前提

・部分字形（パーツ）の統一は、右に示すような部分字形が仮想ボディに占める領域ごとに判断する。領域が異なれば部分字形は必ずしもそろえる必要はなく、デザイン優先とする。



・点画の長短については、長短の違いにより別字とならないものは包摂し、あえてそろえる必要はなく、デザイン優先とする。

廷・珽 (壬の横画の長さ)

2. 具体例

・点画を止めるか、抜くかについては包摂した。

兆 = 兆 耳(聾) = 耳(聾)

・ㄗA はㄗB に包摂させ、ㄗB、ㄗC、ㄗD を以下のとおり整理した。
常用・人名漢字；ㄗC を優先的に採用し、ㄗB とㄗD を非包摂とした。
表外漢字；ㄗB を優先的に採用し、ㄗC とㄗD を非包摂とした。
(表外漢字が1字のみ存在する時、その字形はㄗB もしくはㄗD である)

A: 𠄎 B: 𠄎
C: 𠄎 D: 𠄎

・ヒゲ（筆押え）について常用・人名漢字に対しては、ヒゲなしの字形を基本として、ヒゲのある字形も採用した。また、表外漢字に対しては、ヒゲありの字形を基本としてヒゲなしは、あえて制作しない。

更(便)・更(便)
𠄎(延)・𠄎(延)

・部分字形「攴」の構成要素である「又」の終筆は、デザイン優先で「押さえる」か「払う」かを筆写の伝統に基づくデザイン優先で決め、別字は作らない。

攴(撥) → 攴(撥)

・その他包摂としている例を右に示す。

歸(aj01596) に対してヒラギノは 歸(aj01596=aj13429) に包摂
貫(aj13426) に対してヒラギノは 貫(aj01551) に包摂
植(aj13465) に対してヒラギノは 植(aj02536) に包摂
像(aj13474) に対してヒラギノは 像(aj02814) に包摂
拏(aj13543) に対してヒラギノは 拏(aj04963) に包摂
次(aj13800) に対してヒラギノは 次(aj02253) を採用 (二水は誤字)
枞(aj13550) に対してヒラギノは 枞(aj05178) に包摂

・非包摂としている例を右に示す。

禺(隅) ≠ 禺(隅) 虎(虡) ≠ 虎(虡)